

第169回毘沙門サロンに参加して

小説伊豆の踊子の文節に「いい人はいいいね」という名文がある。これは、私の持論であるがレコードの音(響き)はいい音がいい。

拘りであるが針を落とす瞬間の緊張感それはレコードならではの響きでまさに至福の時なのである。

さて、本日5月16日に西集会所に於いて蓄音機での音色が聴けると伺い参加してきました。

今回その貴重な蓄音機を持参されたのは町内にお住いの平原明熙(ひらばらあきひろ)さんです。

いよいよその緊張の瞬間が訪れました。

数々お持ちのSPレコードから今日紹介されたのは霧島昇さんの「高原からの月」、

雪村いづみさん菅原都々子さんの若い頃の音声の名曲、そして「バタヤン」こと

田端義夫さんの大ヒット曲「かえり船」です。

ハンドルを平原さんがゆっくりと回され「じ〜っ」と言う音と共に音色が聴こえてきました。

その音色は円やかで温もりが体中で感じられ何とも心地良いのです。

それらは永遠に耳に記憶しておきたい音です。

このサロンを企画して下さった毘沙門台学区社会福祉協議会の皆さまに心から感謝します。

そして、何よりこの蓄音機の音色を提供して下さった平原明熙さんのこれからの健康と長寿を心から願っております。

最後にこのサロンを企画された方々より「若い皆さんのお手伝いを募っております」と申されておりました。

きっと充実した人生を送ることが出来そうですよ……

私からも是非沢山の皆さんの参加をお待ちしております。

(2018/05/16:掲載 HP委員 2丁目 濱本)

